和牛繁殖農家の存続要因に関する実証研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 賢哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/00023128

2023 年 1 月 27 日

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員　（主査）　農学部　専任教授

氏名　廣政　幸生

（副査）　農学部　専任教授

氏名　竹本　田持

（副査）　農学部　専任教授

氏名　小田切　徳美

１　論文提出者　　井上　賢哉

２　論文題名　　和牛繁殖農家の存続要因に関する実証研究
（An Empirical Study of Factors Affecting the Survival of Wagyu Cattle Breeders）

３　論文の構成

序章
第１章　和牛繁殖農家の現状と課題
第２章　和牛子牛市場の実態と取引構造
第３章　和牛生産における血統の役割と和牛繁殖農家の血統選択の意思決定
第４章　和牛繁殖農家の自給飼料生産の状況と課題
第５章　和牛繁殖農家による自給飼料確保と農地集積の分析
終章

４　論文の概要

序章では、研究のバックグラウンドであるわが国の和牛肉生産の 1991 年以降の経緯とそれから生じる問題点を述べ、本論文の研究課題と社会的意義について述べている。次いで、関連する先行研究をサーベイすることで、課題の設定を行い、研究上の意義について述べている。牛肉の貿易自由化以降、わが国の和牛肉生産は肉質を差別化することで存続してきたが、今後、段階的に関税が撤廃される状況で、和牛肉生産が存続するためには生産基盤である和牛繁殖農家の１戸当たり飼養頭数拡大が不可欠であり、そのためには収入を増加させ費用を減少させる必要がある。研究課題はこれら２つの要因を検討、考察することであり、得られる存続への示唆は社会的

意義があるとする。先行研究のサーベイより、収入は如何に子牛価格を安定させ上げること、費用は如何に飼料費を削減するかにあることを指摘し、さらに、前者は和牛繁殖農家の血統選択、後者は和牛繁殖農家による自給飼料生産の確保がキーポイントであるが、研究が希薄で成果が少ないことを指摘し、本論文の具体的な研究課題とすると述べている。

第 1 章では、和牛繁殖生産の現状と課題について、公表統計データを基に検討をしている。先ず、和牛繁殖農家は和牛肉生産の最も川上に位置し生産基盤として重要な役割を担っているが、かつてのように稲作や酪農などを主業としている副業的農家も存在することを確認し、第１に和牛繁殖農家数は減少傾向にあり、1 戸当たりの飼養頭数は増加しているが、依然として 10 頭未満の飼養農家数が約 70%を占め、零細性を抜け切れていない。第２に子牛１頭当たりの生産費は増加しており、飼料費と労働費の占める割合が大きい。規模の拡大に伴い労働費の割合は縮小する一方、飼料費の割合は増大する。第３に和牛子牛価格は去勢（雄）が雌よりも高く、平均価格は 2016 年以降大きく変動しており、月別にも変動している。以上より、1 戸当たりの飼養頭数を拡大する上で、飼料費をいかに減少するか、また、和牛子牛価格が変動する中でいかに高く売れる子牛を生産するかが課題であることを提示した。

第 2 章では、和牛子牛市場の実態と取引構造について検討している。取引構造の分析の前に、和牛子牛市場制度を経済学的に検討し、出荷者と購買者の間で情報がほぼ対称的であり、匿名性の薄い市場であることを指摘した。また、全国の和牛子牛市場を県種雄牛使用率、年間上場頭数、雌価格、去勢価格により 5 つに分類し、それぞれの特徴を考察した。これらを踏まえ、全農いわて中央家畜市場の取引ビッグデータの分析より、第１に出荷者の和牛繁殖農家の多くは小規模であり、購買者は業者、農協関係、官公庁であること。購買方法には雌のみ、去勢のみ、両方があることを明らかにした。第２に特定の出荷者と購買者に年間複数回の取引があり、市場取引でありながら主体間関係が存在することを指摘した。第３に回帰分析により子牛価格に日齢、体重、母牛得点、去勢有無が影響を与えることを明らかにした。第４に主体間関係がある和牛繁殖農家は、購買者の要望に応じた子牛を生産することで有利に販売する戦略があることを明らかにした。

第 3 章では、和牛生産における血統の役割と和牛繁殖農家の意思決定について検討している。先ず、先行研究のサーベイより、和牛改良に伴い血統は造成されており、血統は和牛改良や優れた形質の肥育素牛を造成する役割を担ってきたことを示した。次に、全農いわて中央家畜市場のセリ取引ビッグデータを用いた血統の分析より、血統は多いが、一部の血統に偏ること、回帰分析より、主要血統が子牛価格に影響を与えていることを明らかにし、血統の市場評価が異なることを示した。さらに、出荷和牛繁殖農家へのヒアリング調査より、繁殖農家の血統選択はリスクをいかに回避するかの意思決定をしており、複数の選択を組み合わせることでリスクを分散させていること、情報についても様々な源を組み合わせ取集することで確実なものにしていることを明らかにした。

第 4 章では、和牛繁殖農家の自給飼料生産の状況と課題について、統計データ分析と先行研究サーベイより検討している。先ず、統計上の自給飼料数量を TDN 換算して検討し、近年、自給飼料が減少しており、特に、繁殖雌牛 50 頭以上で顕著なことを明らかにした。次いで、自給飼料の生産費用を TDN 換算で算出し、同じく TDN 換算輸入牧草価格の比較より、農家段階価格では自給飼料生産費は輸入牧草価格と同程度または安価であるとした。また、先行研究のサーベイより

自給飼料生産をしないのは飼料基盤の確保、機械・設備投資、労働力不足が課題となっていること、特に飼料基盤の確保（農地集積）が重要であることを指摘した。

第５章では、和牛繁殖農家による自給飼料確保と農地集積の検討をしている。対象は、Ｙ県Ｙ市Ｉ地区の大規模耕畜複合経営Ｓ牧場であり、同牧場による規模拡大に伴う自給飼料確保と農地集積を如何になしたかを非経済要因の観点から貸し手、借り手の詳細な分析をしている。先ず、Ｓ牧場は飼養頭数の拡大と伴に自給飼料生産の拡大をしており、それは農地の貸借であったことを確認し、分析フレームワークとして、アイデンティティ経済学と信頼の概念を提示している。分析対象はＩ地区の貸し手農家と借り手Ｓ牧場であり、分析結果より、第１に行動規範をアイデンティティ（イエ規範、ムラ規範）より特定し、農地集積の際に経済合理的でない行動を行うのはアイデンティティ効用が金銭の負効用よりも大きくなる。第２に借り手は、貸し手の能力への信頼（規模への信頼、技術への信頼、長期的な能力）及び意図への信頼（個別的信頼、カテゴリー的信頼）がある。第３に貸し手が借り手を信頼しているからこそイエ規範やムラ規範に沿った行動を為し、アイデンティティ効用が高まり、農地集積が進むことを指摘した。

終章では、本研究の課題、如何に子牛価格（収入）を安定させ高めるか、如何に飼料費（費用）を削減するかを、血統選択と自給飼料生産を対象に分析、考察したことについて、各章をまとめている。前者は、様々な情報源から枝肉や子牛市場の情報を収集し、それらを組合せることで、リスクや損失を回避しながら高値が付く血統選択をすることの必要性。また、和牛子牛市場の非匿名性の特性を活かし、購買者と関係を築き、情報を収集することの重要性を述べている。後者については、農地を荒らさずに耕作し続けることができるなどの能力への信頼や、期待を裏切らないなどの意図への信頼を貸し手から得ることが重要であり、それにより、アイデンティティ効用が得られ、圃場整備や賃貸借の同意に応じるようになり得、自給飼料が確保できると述べている。

子牛価格を安定させ高くすることで収入が確保でき、自給飼料確保により飼料費を削減できれば、規模拡大の可能性が高まり、和牛繁殖農家は存続し得る。和牛繁殖農家が存続すれば和牛肉生産も存続することができ、国内需要を満たすだけでなくより一層の輸出拡大につながる。

５　論文の特質

本論文の特質は以下の通りである。

第１に、研究例の少ない和牛繁殖農家が和牛肉の生産基盤であることの重要性とその存続要件を実証研究によって示したことである。課題の検討と考察を統計データによる分析、ビッグデータによる分析、実態調査による分析により総合的にしていること。

第２に、課題の設定において、和牛繁殖農家の血統選択と自給飼料生産が重要なことを、論理性を持って展開をしている。コンパクトな課題設定は現場において説得性を持ち、畜産研究の実証分析に新たな視点を提供していること。

第３に、和牛子牛市場をミクロ経済学的に把握し、取引データを用いて取引構造を明らかにしたことは、子牛価格形成の分析に新たな視点を提供したのみならず市場価格形成び市場機能の研究に新たな知見を与えていること。

第４に、子牛の販売者と購買者の行動を明らかにしたことにより、従来、和牛繁殖農家の経営分析では着目されなかったマーケティング戦略に有用な示唆を与えていること。

第５に、和牛生産において、血統の重要性を明らかにしたことである。消費者には認識されないが、子牛生産においては最重要かつ操作要因となり、繁殖和牛農家の経営行動分析に新たな視点を提供したこと。

第６に、自給飼料生産の有用性を具体的に統計データと実証分析で示したことである。従来、畜産では、自給飼料生産の重要性は指摘されていたが、具体性は不十分であった。それに対しどの程度有用なのかを提示したこと。

第７に、農地集積に関し、非経済要因を新しい分析フレームワークで明らかにしたことである。非経済要因の重要性は指摘されていたが、これまでの分析は甚だ不十分であったのに対し、新しい分析方法を提示したこと。

このように、本論文は多くの特質を含み、総合性を有している。

６　論文の評価

本論文は、和牛繁殖農家の存続、延いては和牛肉生産の存続という社会的重要性を有する斬新な研究テーマに取り組み、特に、これまでに研究が希薄だった血統選択と自給飼料生産を課題として、新たな統計分析、ビッグデータの駆使した分析、非経済要因の新規分析、実態分析などによって総合的で有用な実証分析を行い、考察をしている。研究枠組みの妥当性、データの扱い方と分析手法の的確性、新規の結果解釈の妥当性、議論の展開における堅実性、結論の正当性などがあり、学位請求論文として極めて優秀であると評価をする。

７　論文の判定

本学位請求論文は，農学研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり，本学学位規程の手続きに従い，審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので，博士（農学）の学位を授与するに値するものと判定する。

以　上

主査氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿